



2025 年度社員総会議事録 *

一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構

（＊NPO 法第 14 条 9 “社員総会決議の省略” の規定に準じ、1) 2024 年度事業報告と 2) 2024 年度会計報告の書面と電磁的記録により社員総会を開催したとみなし、ここに議事録を作成した。）

開催日：2025 年 5 月 18 日（書面の回覧と電磁的記録による）

当社員総会は下記に記した社員及び理事の 4 名の参加を持ち、定款の規定により、定足数を満たしたので有効に成立したと議長の方から報告があり、議事に入った。

この議事録は以下の理事及び社員により承認された。

承認サイン／印

参加者：議長： 小沼廣幸（一般社団法人アジア自立支援機構代表理事） 承認済み

理事： 野口良造（京都大学教授） 承認済み

理事： 八丁信正（近畿大学名誉教授） 承認済み

社員： 小沼三恵子 承認済み

- 議題： 1) 2024 年度の事業報告
2) 2024 年度の会計報告
3) 2024 年度の事業計画
4) その他の事項
5) まとめ及び決定事項

（筆責 小沼廣幸 2025 年 5 月 21 日）

1) 2024 年度の事業報告

代表理事より以下の活動報告があった。2024年度期（2024年4月1日から2025年3月31日）、当法人の活動の主体はタイ北部チェンライ県、アカ族のメーキャンタイ村におけるアラビカコーヒー豆の生産、加工、販売支援事業、そして自助努力による村落コミュニティの活性化と互助努力支援事業などが中心になり、前年度よりさらに支援活動が強化された。同時に、当法人が支援し、メーキャンタイ村が主体となり経営されているコーヒー販売促進やメーキャンタイコーヒーの知名度向上、ブランド化を目指すアンテナショップ（バンコクのサトーン地区に2021年2月に開設されたアカメーキャンタイコーヒーショップ）の経営が軌道に乗ってきた。平均で一日100人程の来客数があり、収益も増加し、月により多少の差はあるが、赤字経営からほぼ脱出することに成功した。これと並行して、チェンマイ県チェンダオ郡バンパライ村アカ族コミュニティの女性伝統民芸品製作組合に対する支援も、前年から更に強化された。この二つのアカ族の村へのスタディツア（一泊2日）参加者の合計が2024年度に約70人。参加者の累計は、スタディツア事業が開始された2019年から数えると約200人に達した。バングラデシュにおける小規模農民に対する支援事業は、事前調査、ベースラインスタディが終了し、JICA草の根技術協力支援事業案の概要がある程度完成したものの、パートナーである現地NGOとの調整やその他の要因で、事業案作成の継続を断念した。

タイ北部メーキャンタイ村のコーヒー支援事業

2024年度は、メーキャンタイ村におけるアラビカコーヒーの生産、加工、販売支援が強化され、村の自助努力によるコミュニティ活性化が進展した。コーヒーの生産量は前年より15%増加し、農家の平均収入も倍増した。

- メーキャンタイ村のコーヒー果実生産量は700トン、前年の600トンから15%増加。
- 2024年度の生豆価格は1キロ当たり約300バーツで、2021年の180バーツから65%上昇。
- 農家の平均年収は2018年の150,000バーツから2024年度には300,000バーツに倍増。
- コーヒー残渣を利用した有機肥料作成の試みが始まった。
- 当法人の支援で、村の大型貯水槽の建設が始まり、2025年3月にほぼ完成した。

メーキャンタイコーヒーの販売促進とブランド化

メーキャンタイ村が中心となり、バンコクでのコーヒーショップの運営が軌道に乗り、知名度向上とブランド化が進んでいる。2024年度には赤字から脱却し、月間売上が120-130万円に達した。

- アカメーキャンタイコーヒーショップは2021年に開業し、2024年には黒字化。
- 平均来客数は1日100人を超え、売上は月120-130万円。
- 有名インフルエンサーライソーシアルメディアの協力で、メーキャンタイコーヒーの宣伝が強化された。

スタディツアーレポート

スタディツアーの実施と参加者数

2024年度にはメーチャンタイ村でのスタディツアーレポートが実施され、参加者から好評を得た。合計70人が参加し、アカ族の文化やコーヒー生産について学ぶ機会が提供された。

- 2024 年度のスタディツアーレポート参加者は約 70 人、累計は約 200 人。
- 参加者は日本からの学生や社会人が 3 割ほど含まれた。
- ユーチューバーの協力で、メーチャンタイ村の紹介動画が 2000 回以上再生された。

バンパライ村の女性組合支援事業

バンパライ村のアカ族女性たちが民芸品の制作・販売を促進する為の支援が行われ、持続可能なビジネスモデルの構築が目指されている。コロナ禍での収入減少を受け、新たな販売ルートの開拓が進められた。

- バンコクのアカーメーチャンタイコーヒーショップはこの女性グループから民芸品を定期的に購入し、店頭で販売支援をしている。
- 2025 年 2 月時点で 344 点の民芸品が購入され、一部は日本に輸出された。

タイでのその他の活動と国際会議

タイでのフードバンク活動や国際会議への参加が行われ、持続可能な発展に向けた取り組みが強調された。特に、食料安全保障や環境問題に関する重要性が議論された。

- フードバンク活動は順調に進展したが、援助を最っと必要としている農村部への配布には多くのボランティアが必要となった。ボランティアの増員やボランティア達への交通費等の資金が必要とされたが、地方政府や村落コミュニティからの十分な理解や支援が得られず、活動の拡大が困難になった。
- 2024 年 11 月には持続可能な発展に向けた国際会議で座長を務め、スピーチを行った。

2) 2024年度会計報告

代表理事から2024年度の法人の会計収支の報告があった。別途、会計報告書に詳細があるので、ここでは省略するが。概略は以下である。

予算総額 4,708,543 円（寄付金等の経常収益3,222,749円と前年度繰越金等 の合計）

支出総額 3,148,379 円（海外口座分を含む）

残高 1,560,164円（円口座残高1,472,488円と海外口座残高87,676円=20,678.25バーツ）

この残高は次年度への繰越残高として2025年度予算に組み込まれた。

2024年度の支出に伴う活動資金は法人職員からの年会費、代表理事や親族及び一般支援者達からの個人寄付金、預金口座利息、そして前年度からの繰越金等により確保された。詳細は、会計報告書の総勘定元帳兼現金出納帳に記載された。

3) 2025年度の事業計画

小沼代表理事により2025年度の事業予算の概略と事業計画が説明された。

a) 2025年度事業予算額の見積もり（収入の部）

2024年度からの繰越金 1,560,000円

2025年度の会費、寄付金収入 2,040,000円

計 3,600,000円

b) 2024年度事業費支出の見積もり（支出の部）

1. メーチャンタイ村のコーヒー生産組合支援事業	420,000円
2. メーチャンタイコーヒー販売促進事業	420,000円
3. スタディツアーサポート事業	600,000円
4. チェンダオ女性グループ支援事業	200,000円
5. タイにおけるその他の事業	100,000円
6. その他の事業費	300,000円
7. その他の経費、管理費、予備費	1,560,000円
合計	3,600,000円

4) その他の事項

2024年7月に、元国連FAOの畜産専門家（獣医師）山家又祐氏に、常任理事として就任していただいた

が、御病気の為突然他界された。新理事には近畿大学名誉教授の八丁信正氏が、2025年4月に開催された臨時社員総会において、正式に選任され、就任の承諾を得た。代表理事より、理事の野口良造京都大学教授、八丁信正近畿大学名誉教授、非常勤理事の加藤久和明治大学副学長と田島淳史筑波大学名誉教授に対して、当法人の活動に関するご理解やご支援に、感謝とお礼の言葉が述べられた。

2024年度の事業報告の内容に対して、野口良造理事と八丁信正理事からコメントが寄せられ、コメントの内容を事業報告書の最終版に反映した。両理事から承認するとの確認があった。

5) まとめ及び決定事項

上記の記載事項に関する説明や意見の交換を経て、アジア自立支援機構の2024年度事業報告、2024年度会計報告、及び2025年度事業計画は、社員総会により満場一致で決議、承認された。